

出エジ11 出エジプト記8章1節～19節

「最初の3つの災い」

1. 文脈の確認

- (1) エジプトに主からの10の災いが下る。
- (2) 10の災いの記述は、考え抜かれた形式美を持っている。
- (3) $3 \times 3 + 1 = 10$ という形式になっている。
- (4) きょうは最初の3つの災いを取り上げる。
- (5) 補足説明：ヘブル語聖書では、8：1～4までは7章に入っている。
8章は、8：5から始まる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 第一の災い（復習）：ナイルの水が血に変わる。
- (2) 第二の災い：かえるの害
- (3) 第三の災い：害虫（ぶよ）の害

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 「偶像礼拝」について考えてみよう。
- (2) 「いのち」について考えてみよう。
- (3) 「復活」について考えてみよう。

このメッセージは、人生そのものを考えさせるものである。

I. 第一の災い（復習）：ナイルの水が血に変わる。

1. 警告（7：14～18）

- (1) 各セットの中の最初の2つは、災いの前に警告が与えられる。
- (2) 各セットの中の1番目は、モーセが朝パロの前に立つ。

2. 実行（7：19～21）

- (1) 動作の主体：最初の3つは、アロンの手。
- (2) ナイルの水はことごとく血に変わった。
- (3) 災いの範囲：最初のセットは、害がエジプト全土に下る。

3. 結果(7:22~25)

- (1) 災いの程度:最初の3つは、煩わしいもの。
- (2) エジプトの呪法師たちも同じことをした。
- (3) パロの心は頑なになった。
 - ①わずかばかりの奇跡でも、説得されてしまう。最初から信じる気がない。

II. 第二の災い:かえるの害(8:1~15)

1. 警告(8:1~4)

- (1) 各セットの中の最初の2つは、災いの前に警告が与えられる。
- (2) 各セットの中の2番目は、モーセはパロの前に立つが、時間は不明。
- (3) かえるは、エジプト人には歓迎すべきものである。
 - ①エジプトの農業は、ナイル川に全面的に依存していた。
 - ②ナイル川の増水は、毎年定期的にやって来た。
 - ③増水は7月中旬から始まり、3カ月後には水が引き始める。
 - ④水が引くと、種を蒔く時期になる。かえるが現れる時期と合致する。
- (4) そのかえるが、災いをもたらすものとなる。
 - ①自然現象が、神の力によって極端なものに変えられる。

2. 実行(8:5~6)

- (1) 動作の主体:最初の3つは、アロンの手。
- (2) 災いの範囲:最初の3つは、害がエジプト全土に下る。

3. 結果(8:7~15)

- (1) 災いの程度:最初の3つは、煩わしいもの。
- (2) エジプトの呪法師たちも同じことをした。
 - ①人々にとっては迷惑なことであった。
 - ②彼らは、かえるを取り除くことができなかった。
- (3) パロはモーセとアロンに願った。

「パロはモーセとアロンを呼び寄せて言った。『かえるを私と私の民のところから除くように、【主】に祈れ。そうすれば、私はこの民を行かせる。彼らは【主】にいけにえをささげることができる』」

- (4) モーセは「時間の指定」を迫った。
 - ①神の力を疑わせないために。
- (5) パロは、「あす」と答えた。

- ①ひょっとしたら、事前に解決する可能性がある。
- ②エジプトの常識では、儀式を行うのにこれくらいの時間がかかる。
- ③聖書の教え
 - 「きょう、もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない」(ヘブ3:15)
- (6) モーセの答え。「あなたのことばどおりになりますように」
 - ①「私たちの神、主のような方はほかにいないことを、あなたが知るためです」
 - ②7:17でモーセは語っていた。
 - ③イスラエル人を救出するのは、神々の中のひとりなのか、真の神【主】なのか。
- (7) モーセの祈り
 - ①主の計画は必ず成就する。
 - ②それが成就する方法は、祈りである。
- (8) かえるは死に絶え、ナイルにだけ残った。
 - ①かえるの死骸で地は臭くなった。
 - ②パロは心を頑なにした。

Ⅲ. 第三の災い：害虫(ぶよ)の害(8:16~19)

- 1. 警告：各セットの中の3番目には警告はない。
- 2. 実行(8:16~18)
 - (1) 動作の主体：最初の3つは、アロンの手。
 - (2) 災いの範囲：最初の3つは、害がエジプト全土に下る。
 - (3) 「ぶよ」とあるが、これはヘブル語では一般的な言葉で、「種々の害虫」のこと。
- 3. 結果(8:19)
 - (1) 災いの程度：最初の3つは、煩わしいもの。
 - (2) エジプトの呪法師たちは、同じことができなかった。
「これは神の指です」
 - (3) パロの心は頑なになった。

結論： このメッセージは、人生そのものを考えさせるものである。

- 1. 「偶像礼拝」について考えてみよう。
 - (1) 第2の災いによって裁かれた神

③Hapi ハピィ(ナイルの霊。堆積物を管理し土地を豊穡にする神。乳房と妊婦の腹を持つ)

⑧Heqt ヘクト(体は女性で顔はかえる。クヌムの妻。復活と豊穡の象徴)

(2) 第3の災いによって裁かれた神

⑨Uatchit ウアトウチット(害虫からエジプト人を守る女神。コブラの頭に赤い王冠)

⑩Seb セブ(地の神。害虫から人々を守る)

(3) エジプトの祭司たちも辱めを受けた。

①彼らは、昆虫による汚れを受けないために、毛を剃っていた。

②祭司たちもまた、昆虫による災いを受けた。

(4) エジプトの呪法師たちも敗北した。

①同じことをできなかった。

②神の業を消し去ることはできなかった。

2. 「いのち」について考えてみよう。

(1) エジプト人にとっては、ナイル川は「いのちの母」であった。

(2) 最初の災いによって、ナイル川に生息する「いのち」は死んだ。

(3) 第2の災いによって、「かえる」(いのちあるもの)が大量に造られ、死んだ。

(4) 命を支配しておられるのは、ヤハウエ(【主】)であることが明らかになった。

「私たちの神、【主】のような方はほかにはいないことを、あなたが知るためです」

3. 「復活」について考えてみよう。

(1) エジプトは「両生類」を尊重した。

(2) 2つの世界で生きることが出来る。

①おたまじゃくしは、水の中。

②かえるは、陸上。

(3) エジプト人は来世へのこだわりを持っていた(永遠の来世の存在を信じていた)。

(4) 日本人の来世観(仏教+民間信仰)

①死んで7日目に三途の川を渡る。

②流れの速度の異なる3つの瀬があり、生前の業によってどこを渡るか決まる。

③此岸(しがん)から彼岸(ひがん)に行く。

⑤その結果、極楽に行くか地獄に行くかが決まる。

(5) エジプトでは、死後、オシリス神の法廷で審判を受けるとされていた。

①「死者の書」が棺や、ミイラを巻く布に入れられた。

②それは、死後の試練を乗り越えるための手引書である。

(6) 聖書に解決がある。

①イエスのことば ヨハ11:25

「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか」

②パウロのことば IIコリ 5:21

「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです」

③パウロのことば IIテモ4:1

「神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思って、私はおごそかに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい」